

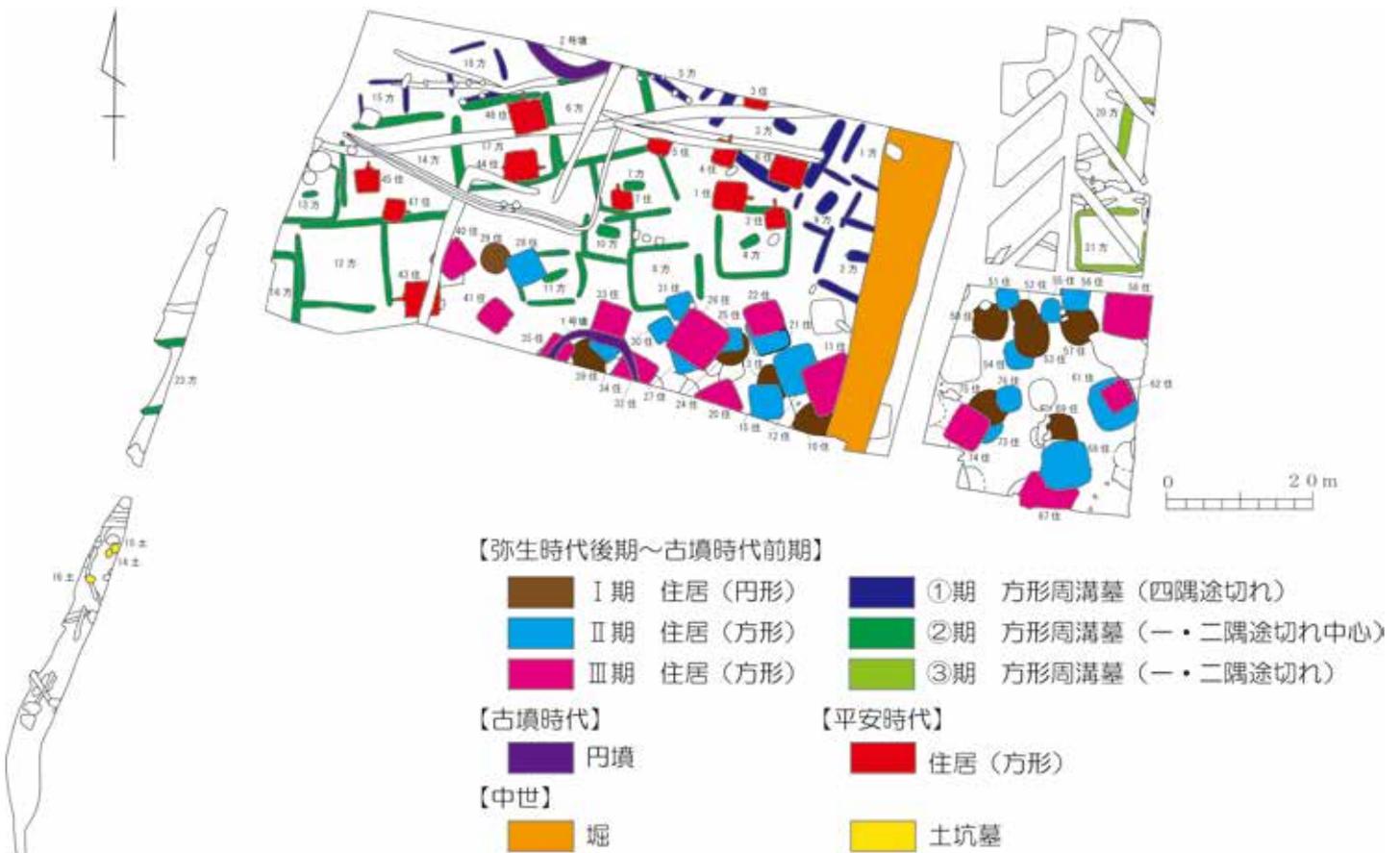
さかい

境遺跡 - 根形の台地に広がる弥生時代から古墳時代の大集落 -

境遺跡は、JR 袖ヶ浦駅から東へ約 4 km、袖ヶ浦公園の東に広がる台地に位置します。境遺跡を含む周辺の台地には、旧石器時代から中世にかけての複数の遺跡が広範囲に分布することから『根形台遺跡群』と呼ばれています。境遺跡は根形台遺跡群の中の一つであり、現在の根形公民館の位置にあたります。根形公民館建設等に伴い、昭和 58 年から平成 5 年の間に 3 度の発掘調査が実施され、竪穴住居 84 軒、^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓（四角形に形作った溝に囲まれたお墓）24 基、円墳（円形の古墳）2 基などが発見されました。

方形周溝墓と竪穴住居の多くは、弥生時代後期から古墳時代前期（今から約 1,600～1,900 年前）のものです。根形台遺跡群にある近隣の遺跡からも、同じ時代の竪穴住居や方形周溝墓が発見されていることから、当時の集落が台地の広範囲に広がる大規模な集落であったと考えられています。また、長い間、居住域や墓域として使用されていたことから、竪穴住居は円形から方形へ、方形周溝墓は四隅が切れるものから一隅又は二隅が切れるものへ、といった時代の移り変わりによる形の変化を見ることができます。

発見された弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居や方形周溝墓からは、甕（煮炊きに使用した土器）や壺（保管や貯蔵に使用した土器）など様々なものが見つかりました。中でも方形周溝墓からは、埋葬者への様々な副葬品が見つかっていて、^{ていぶせんこうどき}底部穿孔土器と呼ばれる壺の底にわざと穴をあけた特殊な土器も見つかりました。底に穴が開いていることから日用的には使うことができません。何らかのお祭り（祭祀）に使われたと考えられています。



境遺跡 遺構配置図



発掘当時の様子
(竪穴住居や方形周溝墓)



方形周溝墓から発見された
底部穿孔土器



境遺跡からの出土品